

Ⅲ 仕

様

1 一般事項

1. 工事範囲	本仕様書及び図面の示す範囲とする。但し下記工事は含まない。
2. 材料その他	敷地造成工事、門塀工事、屋外電気工事、屋外給排水工事、ガス工事、造園工事、浴槽工事各工事用材料で日本工業規格（JIS又はJES）の制定あるものは、すべてこの規格による。なおセメント瓦、厚型スレート、木毛セメント板、ワイヤラス、アスファルトフェルト、アスファルトルーフィング等の工業標準化法による指定商品については、なるべくJISマーク表示品を使用する。 各工事に使用する材料について品質又は品等の明らかなでないものについては、それぞれ中等品とする。材料の寸法及び工法は現場の納り、若しくは取合の関係により多少これを変更する場合も請負金額を増減しない。
3. 別途工事との関連	一部工事を別途に附する場合はその請負人と常に連絡し工事完成に支障のないよう処理する
4. 養生	居住室廻りその他主要な柱及び床板は適当な材料で所要の期間中養生する。
5. 増築	建増及び模様替の各工事は、すべてこの仕様書のそれぞれ該当する項目を準用し、施工するものとする。
⑦ 建増及び模様替の仕様書の適用について	
⑧ 既存建物の模様替及び連続して建増する場合	(1) 既存建物の模様替及び連続する建増の取合箇所が取こわしは、ていねいにするとともに既存建物の汚染又は破損などを防ぐため、適当な材料にて養生する。 (2) 既存建物が汚染又は破損を生じたときは、既存建物にならない原状に復する。 (3) 既存建物の模様替箇所及び建増による取合箇所柱その他の構造材を取り除く場合は、危険のないように養生するとともに、必要に応じ添梁、添柱その他補強金物等にて堅固にするものとする。 (4) 既存建物の模様替箇所及び建増の取合箇所既存建物の構造及び造作等が腐朽又は破損している場合は、それぞれ適宜補修する。この場合、請負金額は変更しない。
6. 古材の再使用	模様替等より生じた古材を再使用する場合は、耐用年限を充分考慮して使用する。
7. 注意事項	(1) 特記のない事項でも、構造上及び施工上必要な場合は、注文者又は設計者の指示を受け

て施工する。この場合、請負金額は変更しない。
 (ロ) 現場火気に関しては特に注意する。

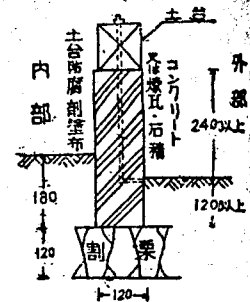
2 土 木 及 び 基 礎 工 事

水 盛 や り か た	配置図によりなわ張りをなし建物の位置を定め、やりかたは図面にならい正確堅固に取付け、常にその調査を行い不整な箇所は直ちに修正する。
根 切 業	やりかたに従い巾、深さ等正確に根切し、必要ある場合は、のりを付け又は土留め柵を設ける。割ぐり石は硬質のものとし図面にならい小ば立に張込み、目潰砂利を敷き大たこにて突固めとする。但し二階建の布基礎は真棒突きとする。割ぐり石の代用として玉石等の使用も差し支えない。
基礎コンクリートその他	布基礎(1図参照)その他無筋コンクリートのセメント、砂、砂利の調合は容積比にて1:3:6、鉄筋コンクリートは1:2:4とし、から練り、水練りとも充分練合せ、打込みは空けきのないよう突き締める。打込み終了後は直射日光、寒気、風雨等をさけるため、むしろ等をもつて養生をする。煉瓦積、石積、ブロック積の場合は割ぐり地業突固めの上に、捨てコンクリート調合1:3:6を60mm(2寸)以上たいらに敷きならし、地墨又はやりかたにならい、通りよくモルタルすえとする。目地モルタルは調合1:2とし、敷トロ、注トロを空けきのないよう、入念に施工し、植込ボルトの個所は埋込穴充分に取り、注トロ入念に注ぎ込むものとする。植込ボルトの径は13mm(4分)を位置正確にコンクリート中に埋込み、露出部はコールタール塗とする。
埋戻し及び地ならし	根切土のうち、良土を使用し、埋戻しは厚さ30cm(1尺)内外毎にたこ等にて突き固める。建物周囲1m(3.3尺)まで地ならしをする。

3 木 工 事

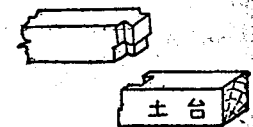
材 料	木材はすべて充分乾燥したる良質材で構造材は見えがかり一等、見えがくれ2等以上、造作材は見えがかり一等上小節以上、見えがくれ一等小節以上とする。 規格は、昭和24年8月20日農林省告示「用材規程」による。
仕 上 げ 程 度	見えがかりはすべてカンナがけ仕上げとする。
接 ぎ 手 の 位 置	特に指定するもののほかはすべてやりちがいにすること。

1図 布基礎詳細



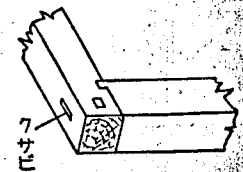
2図 土台の継手

腰掛あり継

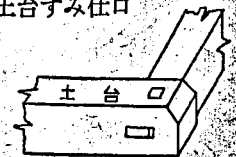


3図 土台すみ仕口

えりわ入小根はそ打ち抜き割くさび締め



4図 土台すみ仕口

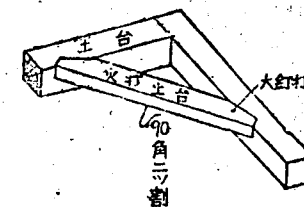


平はそ打ち抜き割くさび締め

金物及びくさび、込栓

釘長は特記ない限り木厚の2倍半以上のものを使用する。
かすがいは部材の大きさに応じて市場出来合品太さ6mm(2分)以上を使用する。
ボルトは径13mm(4分)とする。くさび、差し込みせんは充分乾燥した堅木を使用する。

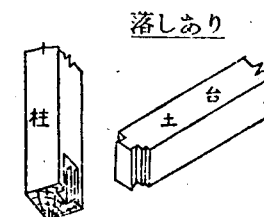
5図 火打土台の取付方



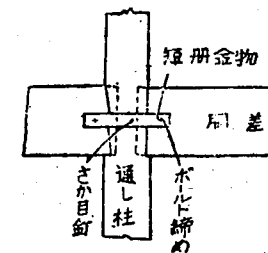
軸 組 (寸法欄の前の数字の単位はmmで、()内は寸です)

名 称	材 種 ・ 寸 法	継 ぎ 手 工 法
(1) 土 台	ひば又ひのき 100×100(3.3×3.3)	継ぎ手は柱及び植込みボルトの位置をさけて腰掛けあり継ぎとし(2図参照)、隅々の仕口はえり輪入り小根はぞ打ち抜き割りくさび締め(3図参照)又は平はぞ打ち抜き割りくさび締めとする(4図参照)。 丁字取合部は大入れあり掛とする。土台締付用アンカーボルト埋込み長さは18cm(6寸)以上、間隔は2.7m(9尺)内外とする。
(2) 火 打 土 台	杉 45×90 (1.5×3.0)	火打土台は傾き入れ大釘2本打ちとする(5図参照)。
(3) 柱	杉 100×100(3.3×3.3)	上下はぞ差しとし、かすがい又は込せん打ち、隅柱の下は平はぞ又は扇はぞ差しかすがい打ち又は大釘打ちとする。但し土台はなと柱の取合は落しありとする(6図参照)。
(4) 胴 差 (二階建の場合)	杉 又は 松	通しものを原則とするも、やむをえない場合の継ぎ手は梁の位置を避け、梁を受ける柱間を避け、柱より持出しに追掛大栓継ぎ(9図参照)柱の取合は傾き大入れ短はぞ差し、短冊金物ボルト締め(7図参照)隅は傾き大入れ(8図参照)、短はぞ差し短冊又はかね折金物ボルト締めとする。
(5) 間 柱	杉 40×50 (1.3×1.5) (大壁のときは柱三ツ割り)	上下短はぞ差し、又はしも釘打ちとする。筋かい当りは切欠き、釘打ちとし、通しぬき当りは添え付け釘打ちとする。

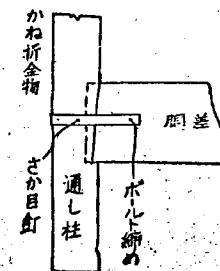
6図 柱と土台との取合



7図 通し柱と胴差との取合



8図 通し柱と胴差との取合



(6) 軒 げ た	杉 又 は 松
(7) 間 仕 切 げ た	杉 100×100 (3.3×3.3)
(8) 筋 か い	〃 柱 三 ツ 割
(9) 火 打 は り	〃 80×90 (3.0×3.0)
(10) 通 し ぬ き	杉 15×100 (0.5×3.3)

継ぎ手は柱及びはり位置を避け腰掛かま継ぎ又は追掛継ぎ大栓2本打ちとする(9図参照)。

継ぎ手は柱位置を避けるとともに、はりを受ける柱間を避け、腰掛あり継ぎ、かすがい打ちとする。

柱に取合部は、柱に傾き大入れ短はぞ差し、かすがい打とする。十字型、丁字型取合部の上端が平たんな場合は、腰掛あり継ぎ(2図参照)、上端かすがい打ちとする。

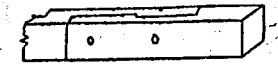
平たんでない場合の丁字型部は、わたりあご手ちがいにかすがい打ちとする。

両端斜め胴着き、木半分ビンタに欠込み大釘打ち、間柱当りは間柱を欠込み釘打ちとする(10図参照)。

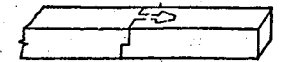
けたその他上端の乗せかけの場合は、斜ビンタに欠き、乗せかけ、ボルト締めとし、横面に取合の場合は傾き短はぞ差し、ボルト締めとする(11図参照)。

柱に差し通し、くさび打込み釘打ちとする。

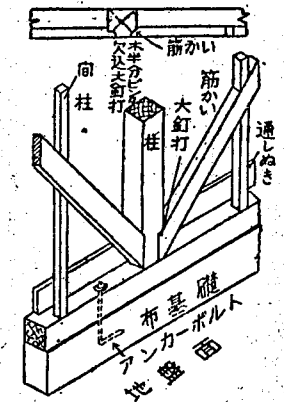
9 図 けた及び胴差の継手
追 掛 継



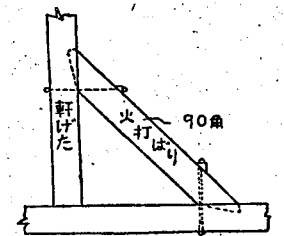
腰掛あり継



10 図 柱と筋かいと差取合



11 図 けたの火打はり



和 式 小 屋 組

(1) 小 屋 ば り	松 張 1.8m—末口105mm 間 (6尺—末口305寸) 〃 2.7m—末口120mm (9尺—末口4寸) 〃 3.60m—末口150mm (12尺—末縮口5寸)
-------------	---

軒げたとの取合は、かぶとあり掛、羽子板ボルト締めとする(12図、13図参照)。

継ぎ手は、受材上で台持継ぎ、ボルト締め又はダボ入とし両端かすがい打とする(14図参照)。末口135mm(4寸5分)

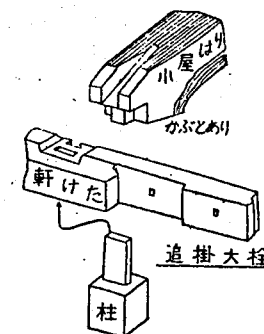
以下のものは、受材上でやりちがい、いずれも受材との取合

(2) つ か	杉 90×90 (3.0×3.0)	は、渡りあごに仕掛け、手ちがいかがい打ちとする。 上部長はぞ大釘打ち、下部短はぞ差しかすがい打ち。
(3) 小屋 筋 かい	杉 15×100 (0.5×3.0)	取合材に添え付け、釘打ちとする。
(4) 〃けた行筋かい	〃 〃	取合材に添え付け、釘打ちとする。
(5) むな木、も や	〃 90×90 (3.0×3.0)	継ぎ手は、つか位置を避け、腰掛あり継ぎ、かすがい打ちとする。
(6) た る き	〃 40×45 (1.3×1.5)	もや上端にて、そぎ継ぎ又は突付継ぎ、大釘打ちとする (15図参照)。

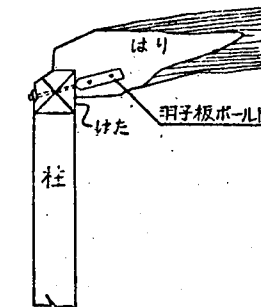
床 組

(1) 大 引	杉 90×90 (3.0×3.0)	継ぎ手は、腰掛ありぬい釘打ち、土台との取合は腰掛又は乗掛釘打ちとする。柱との取合は添木取付乗かけ釘打ちとする。
(2) 根 太 掛	〃 24×90 (0.8×3.0)	継ぎ手は、柱真にて突付継ぎ、添え付け大釘2本打ちとする。
(3) 根 太	杉又は松 40×45 (1.3×1.5)	継ぎ手は受材真で突付継ぎ大引に置渡し大釘打ちとする。
(4) つ か	杉 90×90 (3.0×3.0)	上部は、大引に短はぞぬい釘打ち、下部は、つか石に切付け根がらみを釘で打ち付ける (16図参照)。
(5) 梁 (二階床)	270m×120×180 松張間 (9尺—4.0×6.0) 3.60m—120×240 (12尺—4.0×8.0)	胴差との取合は、通りあごボルト締め、通し柱との取合は、かたぎ大入れ、短はぞ差し羽子板ボルト締め又は箱金物取付けボルト締めとする (17図参照)。
(6) 火 打 は り	松又は杉90×90(3.0×3.0)	はり又は胴差の側面に取合は、かたぎほぞ差しボルト締め、上端に取合の場合は渡りあご又は通りあごボルト締めとする。
(7) 根 太 掛	松又は杉30×90(1.0×3.0)	柱に欠込又は添付け、継ぎ手は突付継ぎ、大釘打ちとする。
(8) 根 、 太	3寸5二ツ割	はりに大入れ、上端ビンタとし、突付継ぎ大釘打ちとする。

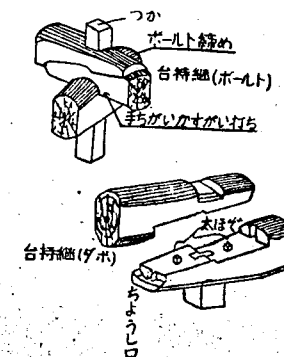
12図 小屋とけたとの取合



13図 羽子板ボルトの取付



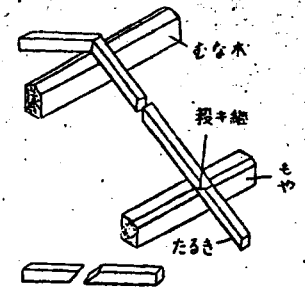
14図 小屋はりの継手



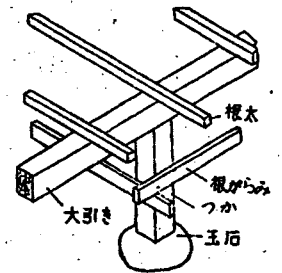
屋根野地その他

(1) 鼻かくし	杉 15×105 (0.5×3.5)	継ぎ手は、受材真で突付継ぎ、釘打ち、はふ板に彫込み、木当り釘打ちとする。
(2) はふ板	" 24×150 (0.8×5.0)	もや、けた当り釘打ちとする。
(3) 広小舞、のぼり よど	" 15×100 (0.5×3.3)	継ぎ手は、鼻かくしの継ぎ手の位置を避け、相欠き継ぎ、隅は大留め、野地板付は相じやくり、釘打ちとする。
(4) めんど板	" 厚9 (0.3)	たるき間に切込み釘打ちとする。
(5) 野地板	松又は杉 厚9 (0.3)	継ぎ手は、たるき真で突付け釘打ち、約10枚毎に乱継ぎ、軒先の見えがかりは亡り刃又は相じやくりとする。

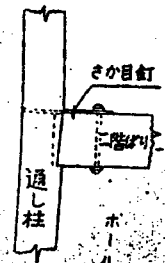
15図 たるきの継手



16図 床組



17図 通し柱と二階ばりとの取合

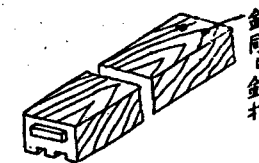


敷居、かもし、むめ、出入口枠その他

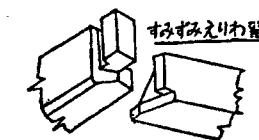
(1) 敷居、かもし、 むめ	敷居 松 40×100 (1.2×3.3) かもし 杉	建具溝ぼり。 雨がかり部分は、水返しじやくりをなし、両端内側に胴着とし外部より柱に欠き込み、忍び釘打ちとする。 畳添いの敷居は、一方短はぞ差し、他方すり込横せん打ち、中間にくさび銅い釘打ちとする。 むめ、かもし等は一方短はぞ差し又は目ちがい入れ、他の一方はすり込み2箇所釘打ちとする (18図参照)。 溝ぼりをなし、取合材に添え付釘け打ちとする。 柱間に切込み忍び釘打ちとする。 上下短はぞ差し、忍び釘打ちとする。 下部は寄付あり釘打ち、縁げたの類との取合は、長はぞ差
(2) 一筋	杉 40×54 (1.2×1.8)	
(3) 附かもし	" 30×40 (1.0×1.3)	
(4) 方立	" 40×90 (1.3×3.0)	
(5) つりづか	" 100×1000 (3.3×3.3)	

(6) なげし	15×24×75(0.5×0.8×2.5)	し、込せん打ちとする。 すみすみえりわ留め(19参照)各柱当りえりわ欠き、釘ぼりをなし、忍び釘打ちとする。
(7) 窓、出入口わく	たてわく 杉40×100(1.3×3.3) 上下 杉40×100(1.3×3.3)	たてわくの開き戸の場合は、戸当りじやくり、外部引きちがいの場合は建付溝じやくりとし、上下えりわ入れ、2枚はぞ打抜き割くさび締めとする。上わくは開きの場合は戸当りじやくり、敷居、くつずり、さら板は、雨掛りは水返しじやくりとし、平たんに水切り勾配付けとする。なおわくの取付けはわくの両たん及び中間は600mm(2尺)内外わく裏にくさびかい、柱等に釘打ちとする。
(8) がくぶち	杉 24×30 (0.8×1.0)	わくに小穴入れ又は添付けすみ見付大とめ、両たんを押え、間隔600mm(2尺)内外にかくし釘打ちとする。

18図 かも居仕口



19図 なげしすみ仕口



床 板 張 り

(1) 畳下床板	松又は杉 厚12 巾180内外 (厚0.4 巾6.0内外)	板そば突付け、継ぎ手は受材真で突付け、根太あたり釘打ちとする。
(2) 普通床板	" 厚15 巾180内外 (厚0.5 巾6.0内外)	板そばあいじやくり、継ぎ手は受材真であいじやくり乱継ぎ、敷居付きは小穴入れ、根太あたりしのび釘打ちとする。
(3) えんこう板張	松 厚18 巾105 (厚0.6 巾3.5)	板そばさねはぎえんこう面とり、継ぎ手は受材真で目ちがい入れ乱継ぎ、敷居付きは小穴入れ根太当りかくし釘打ちとする。
(4) 二重床板張	下地(松又は杉) 厚9 巾180内外 (厚0.3巾6.0内外) 上張(松) 厚1.8 巾105内外 (厚0.6 巾3.5)	下地板は、材料工法とも畳下床板の項により、板と板との中間にアスファルトフェルトを敷きつめ、上張板は材料工法ともえんこう板張の項による。

天 井 張 り

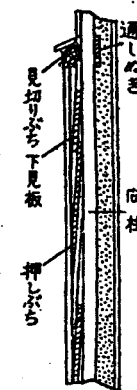
(1) 廻りふち	杉	40×15 (1.2×0.5)	柱当りえりわかき込み、すみはえりわ留め釘打ちとする。
(2) さおふち	"	24×30 (0.8×1.0)	さおふちは、廻りふちにほり込み取付け、天井板張立て、のち裏さんよりぬい釘打ちとする。
(3) 天井板	"	(厚 7 巾240以上) (厚0.23巾8.0以上)	継ぎ手は、さおふち真で切合せ、羽重ね25mm (8分) 内外に割合せ、羽重ね裏けずり合せ、さおふち及び廻りふちあたり釘打ちとする。
(4) 打上天井板張	杉	12×90 (0.4×3.0)	そば及び継ぎ手はいじやくりとし、野ふちにしのび釘打ちとする。
(5) ベニヤ板、ボード、テックス類	ベニヤ板 厚4 (0.13) ボード 厚6 (0.2) テックス 厚12 (0.4)		継ぎ手は、野ふち真で切合せ添え付け、周囲及び野ふちあたり両端を押え、間隔は150mm(5寸) 内外に平かしら釘打ち必要に応じ継ぎ手に金物 (ジョイナー) 又は木製押ふち釘打ちとする。
(6) 野 縁	松又は杉	40×42 (1.3×1.4)	打上天井及びしつくい塗天井の野縁は間隔450mm(1尺5寸) 内外とし、ベニヤ板、ボード類は間隔450mm(1尺5寸) 内外の格子組みとし、さおふち天井の裏さんは 間隔900mm (3尺) 内外とする。
(7) つ り 木	杉	24×30 (0.8×1.0)	間隔900mm(3尺) 内外に配置し、野縁に片あり釘打ち、釣木受に添付け、釘打ちとする。
(8) つ り 木 受	"	末口70 (2.3)	間隔900mm(3尺) 内外に配置し、小屋ばり等にはなじみかき乗せかけ大釘打ちとする。

羽 目 板 張

(1) 胴 縁	杉	15×100 (0.5×3.3) の二つ割	羽目板の下地は、450mm (1尺5寸) 内外に配置し木当り
---------	---	--------------------------	--------------------------------

(2) 羽目板張	厚 12 (0.4)	釘打ちとする。 そばあいじやくり又はさねはぎ周囲小穴入れ又は四分一打廻し、胴縁あたりかくし釘打ちとする。
(3) 笠木、巾木	笠木 40×50(1.2×1.5) 巾木 24×90(0.8×3.0)	そば板じやくり又は壁じやくり柱間に切合せ、すり込み、要所かけより釘打ちとする。 前項同様

20図 押ぶち下見板張



~~押縁下見板張り、よろい下見板張り、たて羽目板張り~~

(1) おしぶちしたみ 押縁下見板張り	杉板厚 7 (0.23) 押縁 24×30(0.8×1.0) 限押縁24×40 (0.8×1.3)	板はそば掛け25mm (8分) 内外板巾に割り合せ、継ぎ手は突付けとし、羽重ね下毎に木あたり釘打ち。押縁の継ぎ手は羽重ね位置で段継ぎ、上下は切付け両端及び下見板2枚おき毎に羽重ね下で釘打ちとする。すみ押縁は分増しをして下見板小口包みに板じやくりを付け取付けるものとする(20図参照)。
(2) 見切縁	45×45 (1.5×1.5)	継ぎ手は、かくし目ちがい継ぎ、出すみは大留め、入りすみはえりわ入れ、柱及び間柱に釘打ちとする。
(3) 雨押え	12×90 (0.4×3.0)	継ぎ手は突付け継ぎ、すみは大留め、土台に添付け釘打ちとする。
(4) よろい下見板張 (南京下見板張)	杉厚 12 (0.4)	板そば掛け20mm (6分) 内外板巾割合せ、継ぎ手は受材真で相欠き乱継ぎとし、木あたり釘打ち。出すみは大留め又は上下交互に差廻し釘打ちとする。
(5) たて羽目板張り	杉厚 12 (0.4)	そばあいじやくり、木あたり釘打ちとし、板継ぎ手は受材真であいじやくり乱継ぎとする。
(6) 胴縁	杉 15×100 (0.5×3.3) の二つ割	たて羽目板の下地は 450mm (1尺5寸) 内外に配置し、柱又は間柱に添付け又は欠き込み釘打ちとする。

階段

(1) 側 げ た	松又は杉	柱にそえ付け、かけにて大釘打ちとする。
(2) 段板、け込板	"	段板は側げたに大入れ、下ばにくさびかい止め釘打ち。 け込板は、側げたに大入れくさびかい止め釘打ち、上部段板に小穴入れ、下部そえ付け釘打とする。

壁 塗 下 地

(1) 土 壁 塗 下 地		左官の玉事木舞かきの項による。
(2) しつくい塗木ずり下地	杉 36×7 (1.2×.023)	木ずりの接ぎ手は、受材真にて突付け、10枚毎に乱継ぎ8mm(2分5厘)内外の目透しに木あたり2本ずつ釘打ちとする。
(3) モルタル塗下地	松又は杉、板厚 12 (0.4)	下地板は、30mm (1寸) 内外の目透しに釘打ち。アスファルトフェルト張りとし、継ぎ手の重なりは30mm (1寸) 以上ワイヤーラスの太さは20#以上、厚さ9mm (3分) 以上網目32mm(1寸1分)以下のものを用い、上下左右 300mm (1尺) 以内に、ステープルで留め付ける。 軒裏等には坪当り重量300g目内外のメタルラスを使用する。

ひ さ し

(1) たる き ひ さ し	腕 木	杉 45×75 (1.5×2.5)	柱に下げかまほぞ差し又は平ほぞ差しくさび締め釘打ちとする。
	出 げ た	" 45×75 (1.5×2.5)	腕木に渡りあご掛け、かくし釘打ちとする。
	た る き 掛	" 24×105 (0.8×3.5)	たるき彫りをなし、柱に欠き込み釘打ちとする。
	広 小 舞	杉 12×75 (0.4×2.5)	そば板じやくり、すみは大留たるきに添付釘打ちとする。
	ひ さ し 板	" 厚 15 (0.5)	そば相じやくり、釘打ちとする。
(2) 板 ひ さ し	雨 押 え	" 12×90 (0.4×3.0)	ひさし板、柱に添え付け釘打ちとする。
	腕木、出げた	杉 45×75 (1.5×2.5)	前項同様。
	板 掛	" 24×90 (0.8×3.0)	柱に欠き込み釘打ちとする。
	ひ さ し 板	" 厚 15 (0.5)	板掛、出げたに添え付け釘打ちとする。
	鼻 が ら み	" 24×30 (0.8×1.0)	板ひさしに添え付け釘打ちとする。
(3) 持 ひ 送 り	は ふ 板	" 厚 15 (0.5)	ひさし板、そば及び出げた板掛に釘打ちとする。
	雨 押 え	" 12×90 (0.4×3.0)	ひさし板、柱に添え付け釘打ちとする。
	持 送 り	杉 厚 24 (0.8)	柱に添え付け釘打ちとする。
(1) 戸	ひ さ し 板	" 厚 24 (0.8)	持送り及びかもいに乗せかけ釘打ちとする。

戸 袋 その他

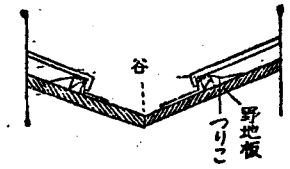
(1) 戸	妻 板	杉 厚 24 (0.8)	板巾は雨戸数に応じさだめ、手先の分は雨戸出し入れ口繰りあけ、羽目板あたり小穴じやくり、柱付きは太ほぞ植込み、裏面よりしのび釘打ち、一と筋は欠き込み、いずれも忍び釘打ちとする。
----------	-----	--------------	---

袋	さら板受けかまち	"	45×30 (15×10)	さら板当り、しやくり両端大入れ釘打ち。
	さら板	"	厚 18 (0.6)	さら板受に釘打ち。
	なげし	"	18×105 (0.6×3.5)	両端妻板に大入れかくし釘打ち、下端板じやくりとする。
	天板	"	厚 21 (0.7)	妻板その他取合材に釘打ちとする。
	羽目板	"	厚 9 (0.3)	目板は面取り、板は妻板間に割合せ、胴縁に釘打ち、板周囲は小穴入れとする。
(2) ぬれえん	(1) かまち	杉	90×90 (3.0×3.0)	継ぎ手、つか真にて、腰掛あり継ぎ、ぬい釘打ちととする。
	(2) えん板	"	24×180 (0.8×6.0)	かまち、板掛に添え付け、かくし釘打ちとする。
	(3) 板掛け	"	30×90 (1.0×3.0)	柱又は土台に添え付け釘打ちとする。
	(4) つか	"	90×90 (3.0×3.0)	上部かまちに短はぞ差し釘打ち、下部つか石に切り付け又は短はぞ付きとする。
押入	根太掛	杉	24×105 (0.8×3.5)	取合材に添え付け釘打ちとする。
	根太	"	40×45 (1.3×1.5)	根太掛に置渡し釘打ちとし、中棚かまちには根太彫りをなし釘打ちとする。
	棚板	"	厚 15 (0.5)	板そばあいじやくり又は汙り刃根太に釘打ち、そうきんずりを打ち廻す。
(4) 植木棚	かまち	杉	45×75 (1.5×2.5)	すみはほぞ打抜き、割くさび締め、柱着きはほぞ差し釘打ちとする。
	方ずえ	"	40×45 (1.3×1.5)	かまち及び柱に、傾きはぞ差し釘打ちとする。
	手すり	"	40×45 (1.3×1.5)	すみは相欠き組合せ、柱にはぞ差し釘打ちとする。
	手すり子	"	30×30 (1.0×1.0)	上下はぞ差しとする。

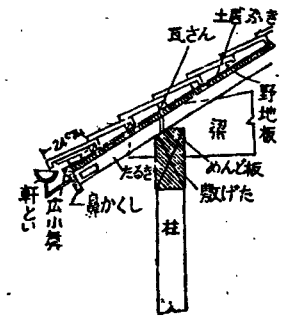
4 屋根 工 事

1. 下ふき (イ) 板き	屋根下ふきには、こけら板、杉皮、アスファルトルーフィングのうちいずれかを用いる。 こけら板は、長さ240mm (8寸)、むねおおい板は400mm (1尺3寸) 内外、軒先及びむねおおい板は2枚重ね、むねおおいは馬乗り掛け、ふき足80mm (2寸7分) 内外一足あき (2枚目) 毎に胴釘打ち及び小羽根打ちとする。
(ロ) 杉皮ふき	軒先は、切板を用い2枚重ね、ふき足は皮の長さの45% 内外、各ふき足毎に押縁当り釘打ち その他は前項に準ずる。
(ハ) アスファルトルーフィング	継ぎ手は、縦横共60mm (2寸) 内外重ね合せ、継ぎ手の通りは間隔300mm (1尺) 内外にその他の箇所は必要に応じてギヤップを当て釘打ちとする。
2. 谷 ど い	とい板は厚28番亜鉛めつき鉄板を使用し、谷板は継ぎ手こはぜ掛け両耳谷縁着きは水返し折りとし、つりこ止めとする (21図参照)。
3. 日本瓦ふき (日本瓦ふきセメント瓦を含む。)	留付けは、引掛さん瓦は、登り5枚目毎に釘打ち、軒先瓦、けらば瓦、谷縁瓦は1枚毎に釘打ち又は鉄線つなぎ、のし瓦、むねは1枚置きに鉄線2条、鬼瓦は鉄線4条ずつを地むねに釘打ちとし、それより取出し緊結する (22図参照)。
4. 厚型石綿スレートふき	留付けは、1枚毎に瓦の釘穴に応じ釘2本以上打ち、むね瓦は1枚毎に細鉄線2条宛にて緊結する。各屋根に使用する鉄線及び釘は、亜鉛めつきとする。
5. 亜鉛めつき鉄板ふき (ひさしふきを含む。)	亜鉛めつき鉄板は、厚さ30番を使用する。 ふき板は600mm×450mm (2尺×1尺5寸) 以内の切板、こはぜ掛けしろは15mm (5分) 内外、軒先及びけらば瓦の通しつけ子は、軒先20mm (7分) 程度、けらばは15mm (5分) 程度のほね出しとし、継ぎ手は重ね掛け250mm (8寸) 内外間に釘打ちとする (23図参照)。 ふき板1枚につき、つりこ4個にて留付け、壁着きは受板に沿い雨押え土まで立ち上げ釘打ち。ひさし等の雨押え包板は下見板裏又は塗壁裏へ充分立ち上げ、要所釘打ちとする。
(イ) 一文字ふき	平ふき板は両耳を瓦棒の上まで立ち上げ、つりこ留とする。瓦棒包の小口は長さ50mm (1寸6分) 内外のかん形をはめ、釘打ちとし、包板は継ぎ手を平ふき板とやりちがいにこはぜ掛けつりこ留め、両耳は平ふき板とつかみ合せにする。
(ロ) 瓦棒ふき	亜鉛めつき板は厚28番を使用する。
6. 雨 ど い (イ) 軒 ど い	継ぎ手は、出すみ入りすみとも20mm (7分) 以上かさねかけ、銅びようかしめ、継ぎ手及びびよう頭はんだづけ、両耳は空捲とする。小口せき板は、とい板に10mm (3分) 以上折

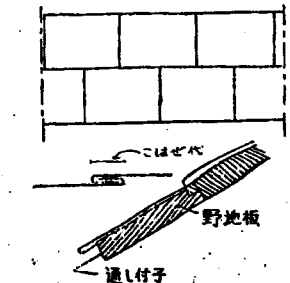
21図 谷 ど い



22図 引掛さん瓦



23図 一文字ふき



(四) たてどい	曲げ添え付け、はんだづけとするか又はしぼりに仕上げるものとする。
(ハ) 呼びどい	はぎめ、こはぜかけ、継ぎ手重ねは30mm(1寸)以上さし込み、継ぎ目ははんだづけ、持金物は上に共板にて下り止め2個はんだづけとする。
(ニ) とい受金物	角形の場合は、はぎ目10mm(3分)内外折曲げ、(重ねかけはんだ付け、上部は軒どいの両耳につかみかけとする。下部はたてどいの円形にならい45mm(1寸5分)内外さし込みとする。
(ホ) コールタール塗り	軒どいの受金物は、  型とし、亜鉛めつき細鉄線2条にてからみ付け固定する。 たてどいの受金物は、蝶番式とする。
	各といの内面はコールタール塗りとする。

5 左 官 工 事

1. モルタル塗り	砂は有害物を含まないものを用い、水は清浄にして塩分その他有害物を含まないものを使用する。セメント、砂の調合比は容積比にて1:3とする。 壁の塗付けは3回とし、下地は清掃の上、水湿めし、下塗は荒し目を付ける。 鉄網張下地の場合は、網目つぶし塗りをなし、その面に更に15mm(5分)以上塗掛け、仕上げ塗りは場所に応じて押え又ははけ引き仕上げとする。 床コンクリートの上塗は、コンクリート打立て後直ちにモルタルを塗り、なめらかに仕上げる。
2. 土 壁 塗 り	間渡し竹はしの竹丸使い、又は真竹割り使い、たて横とも柱ぬき等の際より約60mm(2寸)透し、間渡し300mm(1尺)間内外とし、両端は彫込みぬき当り釘打ちにする。 木舞はたて横とも真竹、又はしの竹何れも割り使い、素なわにて間渡し竹にからみ付けにする。 塗込みぬきはしのぎに削り、荒しを附し、上部はけた類に彫込み、通しぬき当りは釘付けにする。 壁土は良土(荒木田の類)とし、下塗、裏返し塗用はわらずさ混入したねり置きのもの、ぬき伏せ、むら直し、中塗用はすこしの上、砂及びわらずさを適量混入したねり置きのものとする。 下塗後直ちに裏なでをなし、<u>戸袋裏は裏返し塗り後しつくい下塗仕上げとする。</u>ぬき伏には適当な繊維質のものを塗込み、むら直しは地むらなくこて押えをなし、中塗はちり廻り正しくする。大津壁の上塗はかい灰、黄土、川土、すさ等を適当に混合したものとする。 砂もの上塗り仕上げは、予め見本を以て施工主又は設計者と打合せの上決定する。
3. しつくい塗り	上塗用の石灰貝灰は上灰とし他は並灰とする。 のりはつのもたの類としすさ及び下げおは上質のものを使用する。 なお下げおは500mm(1尺6寸)内外、二つ折として釘に結び付け400mm(1尺3寸)間

内外に千鳥に打付け下塗とむら直しの2回に分け塗込みとする。
 木ずり下地のしつくい塗りは4回、塗付け厚は18mm(6分)内外とする。
 下塗は下地によくすり込み、むら直しは地むらなく、中塗はちり廻り正しく、上塗は中塗の乾燥程度を見計らい、こて押え充分にする。

6 建 具 工 事

1. 材	料	材料は1等無節、乾燥材にして、割れ等の欠点などないものを使用する。
2. 工	法	紙張障子以外の各建具の上下かまち及び主要なる横棧は、たてかまちにはぞ打抜き、割くさび締めにし、その他は深はぞ差しにする。ほその枚数は見込み厚さ33mm(1寸1分)以上は2枚、30mm(1寸)以下は1枚ほぞとする。 <u>雨戸の召合わせかまちはいんろうじやくりとする。</u> 鏡板類は周り小穴入れ、雨戸の横さんはたてかまちに打抜きほぞ、戸板は敷目板張り、たてかまちはかたぎ入れし上下かまちにしやくり掛け、木当り釘打とする。 組立及びはぎ付けにはのりで仕付ける。
3. 建 具 金 物		建具に必要な附属品は、特記するものを除き、ちょうつがい、ねじ締め、にぎり類及び底車、レール等はすべて金属製品とする。
4. ガ	ラ	並厚とし、指定の箇所はつや消し又は薄型板とする。
5. ふ	す	下地骨は太骨にして横子は11本以上、たて子は1間2枚建は3本以上、その他もこの割合に準じ、なお引手板付きとする。 下張は機械すき紙3遍以上、上張は新鳥の子程度以上のものを使用する。 見えがくれ箇所は無地、片つや紙とし、上張は見本により決定をうけるものとする。 化粧縁は中はな塗程度、かさね縁は分増付4枚建召合せ縁は定規ねり付けすみ目ちがい入れ、おり合い釘にて留めつける。
6. 戸	ぶ	紙張下骨はふすま同様とし、板又はベニヤ板は周囲かまちに小穴入れ力骨当り銅釘付けとする。

7 塗 装 工 事

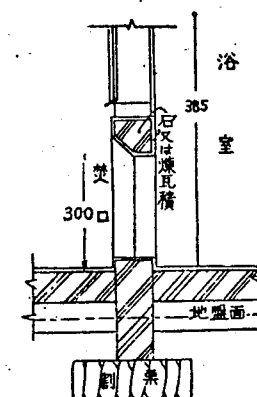
1. 防 腐 剤 塗 り	木部がコンクリート類に接する箇所は防腐剤塗りとし、外部下見板は防腐塗料をむらなきよう塗布する。 土台下端全部、外廻り柱及び台所、浴室等の各柱の小口ほぞ及び土台の小口、ほぞ穴等は防腐剤にひたすか又は充分に塗布する。
--------------	---

2. 油性ペイント塗り	台所、浴室その他湿気のある場所で鉄網モルタル塗の箇所のアスファルト張り下地は（軸及び板張）防腐剤塗りとする。 防火構造の外部鉄網モルタル塗りとなる面の土台及び柱、筋かい、間柱、下地板とも地盤面より高さ1m（3尺3寸）まで全部防腐剤塗りとする（24図参照）。 ペイントの色合は、見本により決定をうける。 塗装箇所は外部各鉄部及びもや小口とし、木部は油性ペイント3回塗り、鉄部はさび落しをなし、さび止め塗料を塗布した後1回塗りとする。
-------------	---

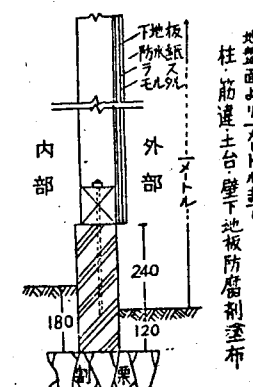
8 雑 工 事

1. 棚 類	棚板は厚さ15mm（5分）受木に取付ける。（取付箇所、台所1.8m、2段）
2. コンロ台及び流し	コンロ台の甲板のそばはいじやくり、わくはほぞ差しに組固め、甲板上端は亜鉛めつき鉄板張り又は石綿スレート板張りとし、流しはコンクリート製の側、底とも厚30mm（1寸）位の鉄線入り、見え掛り人造石塗りときだしの市場でき合品とし、木製わく組の上にすえ付ける。流しの排水といは亜鉛めつき鉄板製とし、排水土管に接続する。
3. 畳 工 事	床は2等品以上を使用する。
4. 便 槽 そ の 他	表は麻糸引通しの1等品を、へりは光輝べりとする。 便槽の多槽式はコンクリート造、排便管はくすりかけ陶管とし、槽内は防水モルタル塗り、汲み取り口（マンホール）は市場でき合品鑄鉄製又はコンクリート製とする。 大小便器及び手洗器は白色陶製中等品以上とする。
5. 床 下 換 気 口	げすがめ式は大便秘所廻り床板下まで耐水性布基礎とし、げすがめの大きさは100以上くすりかけ陶かめとし、その周囲は防水モルタル塗りとする。汲み取り口はコンクリート製市場でき合品をすえ付けるものとする。なお汲み取り口の外部は前方左右30cm（1尺）のコンクリート打ちとする。
6. と い 受 け 石	木製わく組みとし、裏面に亜鉛めつき鉄線網を押縁留めとするか又は鑄鉄製市場でき合品をすえ付けるものとする。
7. め が め 石	たてといの下部にはコンクリート製とい受石をすえ付けるか又は排水陶管に連結する。
8. 浴 室 た き 口	浴室又は台所に取りつけるめがね石は、コンクリート製又は軟石製の市場でき合品を壁体に堅固にすえ付けるものとする。 浴室と台所等の境に取りつけるたき口はコンクリートブロック製をすえ付けるか又は煉瓦積のうえモルタル塗りとする（25図参照）。

24図 木骨防火造ラスモルタル詳細



25図 浴室焚口詳細



9 電 気 工 事

	電気工作物規定並びに電力会社規定により工事を施工する。なお施工範囲は引込箇所までとする。
--	--

10 給 水 工 事

	都市町村水道条例に基き施工するものとする。施工範囲は建物外1m(3尺3寸)までとする。
--	---

11 排 水 工 事

1. 排 水 管	排水管は、くすりかけ陶管とし、きれつ、けつそんその他使用上に欠点のないものを使用する。基礎は、底面はこうばいをつけ、根切をなし突き締める。陶管の継ぎ手にはモルタルをかい込み、なおつば口にはモルタルの目塗をする。
2. た め ま す	基礎は、割くり又は砂利地業を施し、ためますの主体は、コンクリート又は煉瓦積、若しくは適当なる市販品とする。(注)排水工事の施工範囲は、ためますを含み建物より1m(3尺3寸)までとする。

建 設 費 内 訳 書

木 造 平 家 建
~~防火構造~~ ~~三階建~~

葺 棟

m²(坪)

一金

也

内 訳

名 称	呼 称	金 額	備 考	名 称	呼 称	金 額	備 考
1. 仮 設 工 事	1 式	円		9. 雑 工 事	1 式	円	
2. 土工及基礎工事	"			10. 電 気 工 事	"		
3. 木 工 事	"			11. 給 水 工 事	"		
4. 屋 根 工 事	"			12. 排 水 工 事	"		
5. 金 属 工 事	"			13. 材 料 運 搬 費	"		
6. 左 官 工 事	"			14. 諸 経 費	"		
7. 建 具 工 事	"			合 計	"		
8. 塗 装 工 事	"						

内 訳 明 細 書

名 称	摘 要	呼 称	数 量	単 価	金 額	備 考
1. 仮 設 工 事 や り か た 生 養 計		式 /	1 1	円	円	
2. 土工及び基礎工事 根 切 埋 戻 し、地 均 し く り 石 砂 利 コ ン ク リ ー ト 仮 わ く 計		式 / m ³ (立坪) / 式	1 1 1			材料、手間共 /
3. 木 工 事 木 材 釘 及 び 金 物 手 間 計	(大工及び手元共)	石 式 m ² (坪)	1			
4. 屋 根 工 事 土 居 ふ き 瓦 計		m ² (坪) /				材料、手間共
5. 金 風 工 事 と い		m(間)式 又は				

ひさし鉄板其他 計		m ² (坪)式					
6. 左 官 工 事 ラスモルタル吹付け ラスモルタル モルタル 防水モルタル 木舞しつくい塗り 木ずり 計		m ² (坪) " " " " "					材料、手間共 " " " " "
7. 建 具 工 事 建 具 が ら す 計		本 m ² (平方尺)					附属金物及建込みを含む
8. 塗 装 工 事 防 腐 塗 料 油 性 ペ ン キ 計		式 "	1 1				
9. 雑 工 事 コ ン ロ 台 流 量 便 所 設 備 床 下 換 気 口 め が ね 石 と い 受 け 石 計		個 " 帖 式 個 "	1				

名 称	摘 要	呼 称	数 量	単 価	金 額	備 考
10. 電 気 工 事		式	1			
11. 給 水 工 事		〃	1			
12. 排 水 工 事		〃				
た め ま す		個	1			
陶 管		間又は式	1			
計						
13. 材 料 運 搬 費		式				
14. 諸 経 費		〃				
総 計						
m ² (坪) 当 り						

年 月 日

住宅金融公庫融資住宅 木造^{新築}増築工事共通仕様書

東京都文京区小石川町1丁目1番地

財団 住宅金融普及協会編、印行
法人 電話 (929) 1111(大代表)
振替 東京 9099 番

(S.35.4. 120,000)